Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第16号
2024年（令和六年） 7月26日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（7月18日～24日）の国際石油市場は、パレスチナ停戦協議の進展が伝えられる中、中東の緊張緩和、中国の景気先行き懸念拡大などから、軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、18日、わずかに反落の82.82ドルで始まり、3営業日続落、週明け22日は80ドル台を割り、23日には76.96ドルまで下落、引き続き一週を通じて80ドル前後の水準で軟調に推移、24日は反発の77.59ドルで終わった。

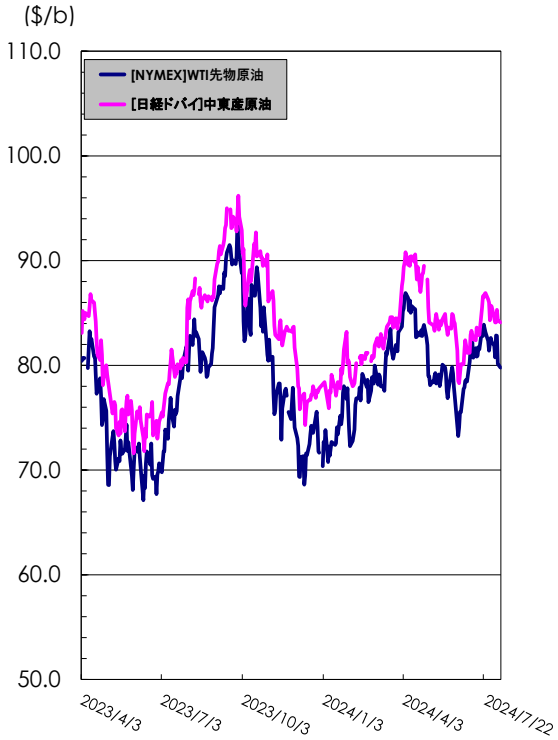
また、中東産ドバイ原油/東京市場（9月渡し）も、前週（7月11日～17日）84.10～85.70ドルの範囲で推移したが、当週は、7月18日85.30ドル、19日84.30ドル、22日84.10ドル、23日84.10ドル、24日81.00ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（7月11日～17日）158.45～161.73円の範囲で推移したが、当週は、7月18日155.86円、19日157.49円、22日157.54円、23日156.74円、24日155.87円となった。

財務省が7月18日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、6月下旬の原油輸入平均CIF価格85,914円で前旬比745円安、ドル建て87.01ドルで前旬比1.04ドル安、為替レートは1ドル/156.97円。また、6月月間の原油輸入平均CIF価格86,543円で前月比363円安、ドル建て87.85ドルで前月比1.02ドル安、為替レートは1ドル/156.62円。

そのような中で、7月22日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.5円安、軽油も同0.6円安、灯油も同3円安（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は175.4円となった。7月25日～31日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は30.8円（補助金がない場合の次週予想価格205.6円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は20.6円）となった。

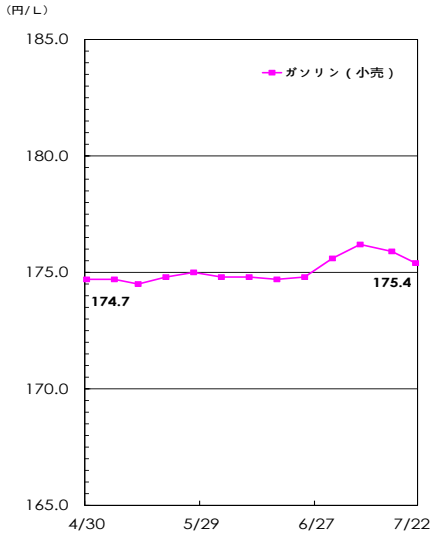
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	7/14 ～ 7/20	2,291	▲ 240	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	66.2	▲ 6.9	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	7/20	9,747	▼ -710	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	7/22	84.10	➡ 0.00	▲ 4.4
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	7/22	79.78	▼ -2.13	▲ 1.0
	原油CIF単価	（$/bbl）	6月下旬	87.01	▼ -1.04	▲ 4.87
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	85,914	▼ -745	▲ 13,957
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	156.97	▼ -0.50	▼ -17.70
	外国為替TTSレート	（¥/$）	7/22	158.54	▲ 0.91	▼ -15.71



（単位：千kl、円/リットル）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/14 ～ 7/20	711	▼ -39	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	786	▲ 30	▼ –
	輸出		〃	19	▼ -30	▲ –
	在庫		7/20	1,526	▼ -94	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/16 ～ 7/22	81.4	▼ -1.4	▲ 2.4
		（TOCOM/中部）	7/22	81.5	➡ 0.0	▼ -1.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/22	175.4	▼ -0.5	▲ 0.6

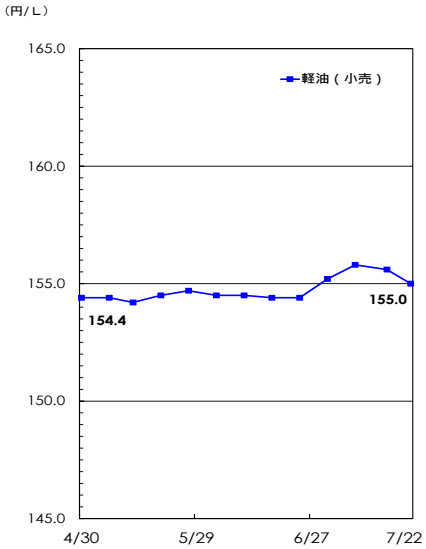
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

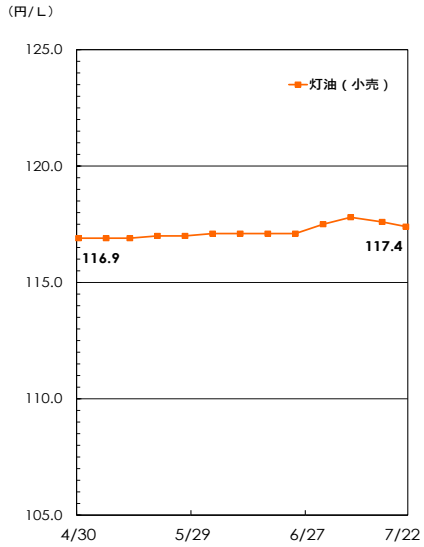
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/14 ～ 7/20	596	▼ -11	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	502	▼ -97	▼ –
	輸出		〃	51	▼ -49	▼ –
	在庫		7/20	1,371	▲ 43	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/16 ～ 7/22	83.4	▼ -2.1	▼ -1.5
		（TOCOM/中部）	7/22	-	-	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/22	155.0	▼ -0.6	▲ 0.6

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/14 ～ 7/20	113	▲ 123	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	74	▲ 35	▲ –
	輸出		〃	10	▲ 10	▲ –
	在庫		7/20	1,692	▲ 29	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/16 ～ 7/22	81.9	▼ -0.6	▲ 3.9
		（TOCOM/中部）	7/22	80.0	▼ -2.0	▼ -3.8
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/22	117.4	▼ -0.2	▲ 2.2



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(7/11～7/17)のNYMEX・WTI先物市場は80.76～82.85ドルの範囲で推移した。

当週、7月18日は、前日高値に伴う利益確定売り、また、有効な景気対策が打ち出せなかった中国三中全会への失望売り、さらに、前日の米国在庫報告を好感した需要増加期待、米国の早期利下げ観測の拡大に伴う景気刺激期待による買いなど、下げ・上げの要素が交錯し、わずかに反落した。8月物終値は同0.03ドル安の82.82ドル。

週末19日は、ブリンケン米国務長官がイスラエル・ハマスの停戦協議は合意に向かっていると発言、中東をめぐる緊張は緩和、地政学リスクは後退するとともに、この日の世界的なシステム障害の発生に伴い外為市場ではドル高が進行、原油先物の割高感が発生し、売りが拡大、大きく続落した。8月物終値は、同2.69ドル安の80.13ドル。

週明け22日は、バイデン大統領の選挙戦撤退を受け、政治状況は不透明化、リスク選好意欲も低下、また、この日中国が利下げを発表するも景気浮揚には不十分と受け止められ、3営業日続落、約1か月ぶりに80ドルを割り込んだ。ただ、イスラエルがフーシ派によるテルアビブへの攻撃(19日)の報復として、イエメンの港湾都市ホデイダを攻撃(20日)、緊張激化から下値を抑えた。納会日を迎えた8月物終値は同0.35ドル安の79.78ドル。

23日は、パレスチナ停戦交渉の進展が期待される中、イスラエルのネタニヤフ首相が訪米、バイデン大統領・ハリス副大統領と会談予定で、緊張緩和期待から、続落した。また、欧州中央銀行(ECB)幹部が追加利下げを表明、対ユーロのドル高進行から、原油先物の割高感が意識されるとともに、引き続き、中国の景気減速が懸念され、値を下げ、約1か月半ぶりの安値を付けた。今日から中心限月となった9月物終値は、同1.44ドル安の76.96ドル。

24日は、米国石油在庫が、原油・石油製品とも予想を上回る取り崩しで、需要の底固さを示し、4営業日ぶりに反発した。カナダの主要産油地アルバータ州の大規模山火事発生、安値拾いの買いも値上がり要因となったが、引き続き、パレスチナ停戦期待、中国の景気減速懸念が上値を抑えた。8月物終値は、同0.63ドル高の77.59ドル。

2　海外/米国石油市場

7月24日発表の19日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比370万バレル減と市場予想(同160万バレル減)を上回る取り崩しと、堅調な需要を反映した結果であった。ガソリン在庫も同560万バレル減と市場予想(同40万バレル減)を上回る、中間留分在庫も同280万バレル減と市場予想(同20万バレル増)に反する取り崩しであったことから、需給の引き締まり感が高まり、値上がり要因となった。

EIAによると、7月22日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.5セント安の1ガロン3.471ドル(145.2円/㍑)と6週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.7セント安の1ガロン3.779ドル(158.1円/㍑)と2週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、7月19日時点で、前週比1基減の477基と2週連続の減少となった。

3　国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年7月14日～7月20日に休止したトッパー能力は61.9万バレル/日で、前週に対して25.1万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は229.1万klと、前週に比べ24.0万kl増加。前年に対しては33.1万klの減少。トッパー稼働率は66.2%と前週に対して6.9ポイントの増加、前年に対しては4.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.2%減、ジェット/9.3%増、灯油/1252.4%増、軽油/1.8%減、A重油/9.0%増、C重油/1.7%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は5.1万kl(前週比4.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少加した。ガソリンの出荷は78.6万kl(対前週4.0%増)と2週振りに増加した。ジェット8.0万kl(対前週39.5%減)、灯油7.4万kl(対前週90.9%増)、軽油50.2万kl(対前週16.2%減)、A重油16.6万kl(対前週9.9%増)、C重油11.0万kl(対前週41.7%減)。

(単位：千KL)

	今週 (7/14 ~ 7/20)	前週 (7/7 ~ 7/13)	前週比
ガソリン	786	756	▲ 30 (4%)
ジェット燃料	80	133	▼ -53 (-40%)
灯油	74	39	▲ 35 (90%)
軽油	502	599	▼ -97 (-16%)
A重油	166	151	▲ 15 (10%)
C重油	110	189	▼ -79 (-42%)
合　計	1,718	1,867	▼ -149 (-8%)

※今週出荷量＝(前週末在庫＋今週生産＋今週輸入)－(今週輸出＋今週末在庫)

4　国内/製品在庫量

7月20日時点の在庫は、灯油、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは152.6万kl、前週差9.4万kl減。前年に対しては11.7万kl多い。

灯油は169.2万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては5.2万kl少ない。

軽油は137.1万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては14.6万kl多い。

A重油は67.3万kl、前週差3.4万kl減。前年に対しては0.3万kl多い。

C重油は171.9万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては6.0万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (7/20)	前週 (7/13)	前週比
ガソリン	1,526	1,620	▼ -94　(-6%)
ジェット燃料	688	697	▼ -9　(-1%)
灯油	1,692	1,663	▲ 29　(2%)
軽油	1,371	1,328	▲ 43　(3%)
A重油	673	707	▼ -34　(-5%)
C重油	1,719	1,678	▲ 41　(2%)
合　計	7,669	7,693	▼ -24　(-0.3%)

5　国内/元売会社製品卸価格

7月16日～22日のドル建て中東原油価格は値下がり、為替レートも円高で、円建て輸入原油価格は値下がりし、元売会社の卸価格建値は値下げしたものと見られる。補助金も減額されたが、小幅であったことから、7/25～7/31の実質卸価格は値下がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

7月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の175.4円、軽油も同0.6円安の155.0円、灯油も18㍑ベースで同3円安の2,114円（1㍑ベースでも同0.2円安の横ばいの117.4円）。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが5県、横ばいは4県、値下がりは38都道府県だった。全国最安値は愛知県の168.4円、その次は岩手県の169.6円であった。他方、最高値は長野県の183.4円。最も値上がりしたのは長崎県（同1.1円高）、最も値下がりしたのは愛知県（同1.7円安）だった。

次回調査時（7/29）のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(7/22)	前週　(7/16)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	175.4	175.9	▼ -0.5	23/9/4	186.5
	灯油	117.4	117.6	▼ -0.2	08/8/11	132.1
	軽油	155.0	155.6	▼ -0.6	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第17号）の公表は、8/2（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。